

観光社会資本の事例

テーマ	四季を通して楽しめる馬見ヶ崎川	
【施設の状況写真】		
		
<p>馬見ヶ崎川全景写真。春は堤防沿いの桜並木、秋は河川敷で芋煮会を楽しむことができます。</p>	<p>親水護岸や河川公園が整備され、川と親しむことができます。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>満開の桜並木の下、河川公園で遊ぶ子供たち。市民の憩いの場でもあります。</p>	<p>毎年9月に河川敷で開催される日本一芋煮会フェスティバル。大勢の観光客で賑わいます。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>馬見ヶ崎川は、堤防沿いに桜が植林され、河川敷は親水護岸や河川公園が整備され人々が憩えるよう工夫されています。そのため、春は桜並木、夏は水遊び、秋は芋煮会と四季を通して川と親しむことができます。特に毎年9月に開催される「日本一芋煮会フェスティバル」には大勢の観光客が訪れます。また、山形市はもとより近隣市町村の憩いの場でもあります。</p>		

テーマ	四季を通して楽しめる馬見ヶ崎川
【社会資本の基礎データ】	
名称	一級河川最上川水系馬見ヶ崎川
所在地	山形県山形市釈迦道～小白川 地内
事業名	馬見ヶ崎川火山砂防事業
事業主体	山形県
事業期間	昭和56年度～平成10年度
【社会資本の役割・効果】	
治水効果 馬見ヶ崎川流域は荒廃が進み、特に事業区間は渓流の浸食が進んでいることから、床固工などの浸食防止対策(床固工12基、帯工16基)を施工し、土砂災害から人家6,000戸、国道10km、県道10km、県庁、学校10校などを保全するものです。	
【位置図】	
	
【関連ホームページ】 イベント関係 http://www.y-yeg.jp/imoni/	